部落解放・人権政策確立要求
佐賀県実行委員会会報

第71号
2016・3・18

事務局
唐津市栄町2588-11
佐賀県解放会館　りぶず内
TEL　0955-73-2615

ネット社会と人権

スマートフォンやパソコンはずいぶん身近な道具になりました。２０１４年に総務省が行った調査によると、スマートフォンの所有率が全体で６割を超したといいます。各年代の内訳は、20代94・１％、30代82・２％、40代72・９％、50代48・６％だということです。

また、文部科学省が行っている「全国学力・学習状況調査」の結果によると、中学３年生で78・６％、小学６年生でも58・０％の所有率であり、同調査結果を佐賀県内の児童生徒に限ってみても、中学生が66・２％、小学校５、６年生が54・６％という数値が示されています。つまり、大人も子どもも、都市部でも地方でも、同じようにインターネット環境が身近なものになっているということです。

普及率に伴い、スマートフォンやパソコンをめぐるトラブルも頻発しています。有害なウェブサイトへの接続や長時間にわたる閲覧、コミュニケーションアプリ（ＬＩＮＥ等）の中でのいじめ問題など、たくさんの事例が報告されています。

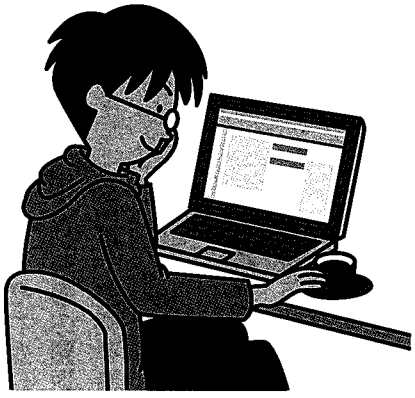
中でも、「カキコミ（書き込み）」と呼ばれる情報発信については、近年そのモラルの低さが問題視されています。

先日、ある女子高校生が、列車内で眠っていた障害のある女性を無断で写真撮影し、画像を短文投稿サイトのツイッターで発信したとして、侮辱容疑で書類送検されるという事件が起こりました。高校生は画像に「笑いとまんない死ぬ」というコメントを付けており、警察の調べに対し「笑いのネタにしたかった。面白半分でやった。」と話したといいます。被害者の家族は、「（こんなことをされたら）怖くて外に出られなくなる。」と憤っていたそうです。

この事件からも、人権意識の低さはもちろんのこと、情報モラルの低さという問題が浮かび上がります。安易な情報発信が、人を傷つけ、その後の被害者の日常生活にまで大きな影響を与えてしまうこと。人に迷惑をかけるばかりでなく、自分の情報も流れていること、その危険性。そういう自覚があれば、少なくともこんな事件は起こらないはずです。

また、インターネット上に流れた情報は、後から消そうと思ってもなかなか簡単に消すことができない、という怖さもあります。

中高生に限らず、私たち大人も、「便利だから」「楽しいから」と深く考えずに情報を発信するのではなく、情報モラルについて今一度正しく学び、みんなが安心して安全にインターネットを活用できるような環境を整えたいものです。



第26回差別と人権を考える佐賀県民集会開催

部落差別の完全撤廃と基本的人権の確立を願い「第26回差別と人権を考える佐賀県民集会」を去る、２０１５年９月29日に佐賀市文化会館において開催しました。

本集会の参加者は1、３５８名でありました。内容は、映画「ある精肉店のはなし」の上映と、その監督である纐纈あやさんによる講演でした。

まず映画は、大阪府で精肉店を営んでいる一家が、牛を飼育して、屠畜場で手作業で解体し、販売する姿を映し出した作品で、牛のいのちと全身全霊で向き合う一家を記録したドキュメンタリーであります。「生」の本質を見続けてきた家族に感動を覚えた素晴らしい作品でした。

また、纐纈監督の講演では、「いのちを食べていのちは生きる」のテーマで話していただきました。映画に込めた情熱と食へのこだわり等を熱く語っていただき、参加者一同が命の尊さと食への感謝を抱き、大変有意義な時間を過ごせました。

以下、多くの方からアンケートをいただきました。その一部を掲載しますのでご覧ください。

アンケートの中から

★映画『ある精肉店のはなし』について

・人権啓発だけでない、いのちを考えさせるだけでもなく、家族や地域の絆だけでもない。それら全てを包含して、ひとつの世界が私のまわりにあることを実感させてくれた。

・昨年、佐賀で上映されたときに参加できず、この映画を見ることができずにいましたが、本日見ることができて、大変うれしく思いました。屠場に対する差別・偏見について、命をいただくことの有り難さについて描かれており、大変感動しました。

・目で見て命の大切さについて考えさせられる機会となった。話を聞くことも良いが、自分が知らない命の終わりとその命が自分の命となっていると実感するという意味で、映像はより強烈に印象に残ると思う。

・知っているようで知らなかったことが目の前で映画として見ることができ、自分自身をふり返ることができました。北出さん家族の生き様を見せて頂き感謝しています。

・日々他の職業と同じように生活している姿が映し出されている点が良かったと思う。その昔、と畜についての身分にある格差が生まれたかも知れないが、実際の作業を見ても、それは1つの職業であり、生活の糧であり、そこに大きな違いはないと感じた。

・「これは普通の映画だ」と感じることがある種の特別な思いにかられる。そして、それがいかにこの現実が普通ではないという事の裏返しになっているのであろう。普通の現実を普通に見る事に新鮮な感覚を味わえる映画に出会えて本当に良かった。

・私たちが観るべき映画だと思いました。

・私たちは、日常当たり前のように肉を口に入れているが、本当に食べ物に感謝をしいただくという意味が改めて理解できました。この映画をみた時には、なるほどと思っても、何日か過ぎればすぐに薄れていく人間、この気持ちをずっと継続できたら、また肉を食べるにあたり、こういう職につかれている事を忘れてはいけません。

・最初からノッキングの場面は、とても衝撃を受けましたが、その後、牛の全ての部位をていねいに大切に扱われる北出さん一家の姿を見て感動しました。毎日、何も考えずに食事をとっていますが、命をいただいているということを忘れず、子どもたちにも伝えていきたいです。

・心を動かされる映画だった。部落差別の本質を描いた作品だった。

・今まで考えないようにしていたことを、考えるいいきっかけとなりました。考えないといけないことだと感じ、忘れることのない映画です。ありがとうございました。

・今まで、ぼんやりとわかったつもりになっていた仕事や差別を直視する機会となりました。体感することができてよかったと思います。
・家族の助け合い、絆がとても感じられました。前向きな生き方に、私も何かをしたい、私のこれからの人生で何ができるのだろうかと考えさせられました。ありがとうございました。
・最初の牛のノッキングから最後の北出さんが店の戸を開けるまで感動すると同時に普段口にしている食べ物と向き合うことが大切であることを考えさせられた。全ての職業にはその人の熱や想いが含まれていることを周りの人へ伝えていく使命も感じた。今日、この映画に出会えて本当に良かったと思う。
・大切な物を見せていただきありがとうございました。
・歴史を乗り越えてきた家族の姿、地域とともに在る家族、協力し合い生きる家族、何をも乗り越えてきた人達の力強さがありました。
・映画は2回目でした。差別を乗り越えながら暮らしている北出さんや東町の姿に感激しました。差別の愚かさを教えていただくと共に差別を乗り越える大切さを学ぶことが出来ました。
・「命をいただく」これまではあまり実感を持ってなかったことに気づかされました。直視できないところがあった自分が情けなくもあります。日常淡々と優しさという言葉が浮かぶ映画でした。北出さんたちに圧倒されました。
・以前北出さんのお話と映画の一部を見る機会がありましたが、全部通して見るのは初めてでした。まさに命をいただいて人は生きていることの現実を感じました。そして厳しい時代を生き抜いて・・今の時代に必要と思われる家族、地域の絆の深さ重さ大切さを感じました。
・屠殺から始まった。ただただびっくりするばかりでした。でも、この映画を見ることで生、死を得てお肉になる過程をきちんと理解することができました。
・最初のノッキングのシーンを見た時はちょっと見たくないなとも思いました。でも、その後の映像を見ていくうちに仕事に対して真剣に取り組まれている北出家の姿に感動させられました。こういう重要な仕事をされてきた人達に差別が行われてきたことをとても残念に思います。
・精肉店の話を通して、牛の飼育から消費者に届くまで描かれており、まさに、私たちは〝いのちを食べて生きている〟ということが実感できた。私たちは生きるために様々なものを口にしているが、その背景には、この精肉店のように、いのちと向き合い、仕事をしている人がいるのだと感じた。
・牛の生育から、屠畜・解体・販売まで、全て自分たち家族や親戚でやっている、生業としているところがあることを初めて知りました。普段、何気なく食べているお肉がたくさんの人の手によって、つくられている、手のかかった有り難いものだと改めて思いました。
・映画の始まりから牛の解体があり、最後まで見られるだろうかと思った。牛肉・豚肉を何気なく食べてきた私ですが、あまりにも人事のように考えていたんだと思いました。そういう人達がいて、食肉ができていることをしっかり覚えていたいです。
・家族の手作業（解体・精肉）を描いてあるので「いのち」をもらっているという印象が強かった。家族の仲の良さと、明るさにも、牛のいのちが感じられ、衝撃を感じる映画であったが、ありがたかった。

★講演（纐纈（はなぶさ）あやさん）について

・この映画がどのような思いでつくられたか、どのような苦労があったか知ることができ、映画から学んだことをさらに深めることができたと思います。纐纈さんの熱い思いが感じられ、映画を通して、北出さんご家族に出会えたことに感謝いたします。
・言葉の一言一言がとても心に響いてきました。自分自身のこととして考えていくことの大切さを改めて考えるすてきな機会を頂いた気がします。本当にありがとうございました。
・真剣な自己の生きざまを映画の中に正直に表現している素晴らしいクリエーターだと感じる。

祝の島もぜひ見てみたい。今後も変に技にこだわる事のない映画作りを進めて欲しい。

・「命をいただく」という事を実感して、他人まかせにしてきた事を初めて感じたと言われたが、確かに映画を見て、スーパーのパックと牛は同じ物なんだなと実感できました。他の人にも映画を見てもらうようススメてみます。あやさんは声がかわいかったです。

・映画作成を通じて、出会いを通して人間愛に目覚められたと思う。

・監督としての思い、しっかり正面から向き合っている強さを感じ、心をうたれました。ありがとうございました。

・自分の心に正直に生きている人なんだろうなと感じました。「責任はとれるのですか?」の問いには、あやさんに投げかけられたものではなく、その言葉を発した人自身にも言えることだったように思います。責任とは、決してそこから逃げないこと、目をそむけないことだと思いました。ありがとうございました。

・差別の見方について、纐纈さんなりの視点で示してくださいました。自分の生きる上での糧となったと思います。

・目をそむけていたことに、切り口を開け、気づかせてくれる大変貴重な映画であった。

・映画から感じたことを言葉にして下さって、映画を通して自分が何を感じたかが形として分かった。

・ていねいな口調と聞きやすい声でとてもよかったです。ご自身の気づかれたこと、お感じになったことの伝え方がとても上手いなと思いました。話の組み立て方や表現の仕方が良かったです。また、映画の補完（においやその場所の空気（気温、湿度）について）にもなっている映画と合わせて聞くことができて良かったです。

・作品に対する愛情だけでなく、北出さん家族に対する愛情、さらに視聴者に対する愛情を熱く語って下さって、ありがとうございました。「この映画をきっかけに新しい出会い」という言葉が本当に印象的であった。

・監督さんの映画に対する思いや体験した話を聞くことができて、より映画を理解することができ、本当に良い機会になったと思います。ありがとうございました。

・映画を制作した思いがひしひしと伝わりました。「残酷という言葉は、と畜解体の仕事が他人事としか思えていないから…」という言葉が印象的でした。差別・人権を自分のこととして考えていきたい。

・屠畜に関する仕事が差別に関することと関わりがあるものと私も認識していました。これまで意識的に避けられた題材にあえて挑戦するという姿勢ではなく、これに「みせられて」熱い何かに突き動かされた作品に仕上げられた思いが伝わりました。

・映画に込められた思いが語られ興味深かったです。時間の問題でしかたありませんがもっとじっくり深く聞きたいと思いました。纐纈監督の情熱に心打たれました。

・「屠場での仕事は特別ではない」という思いに至ったことに私も深くそう思った。屠場で働く人に対して今まで何も思ったことはなかったが、そのような考えを持つ人もいるのだと思った。

・屠畜解体によって我々の食が守られている。屠場で働いている人を差別や偏見の目で見ることなく感謝の気持ちをもっていかなければならない。

・「いただきます」生（命）をいただいていることに感謝。食べることはそういうことなんだと改めて思った。出会ってしまったことに情熱を持って向かい合って素敵な作品が出来たかと思います。

・映画を作成されるまでの過程や気持ちを伺うことが出来て良かったです。死の先に食べ物なる、これが人々の生きる糧になることを伝えたいということが感じました。映画を作成される中で感じられたこと、命を感じる場所でもあることが強く伝わりました。ありがとうございました。

・監督が言われた「牛・豚」がどうたべものになるのか見ていない。私自身、中学生の頃まで私の家では豚の飼育をしていたみたいで同じ思いを持っていました。今日その現場を見る

ことが出来て大変ありがたいと思います。

・貴重な映像ありがとうございました。今後も人間的な映画を作って下さい。

・人が人であるのは周りの色々なつながりの中にしかみえない自分の心の中にある差別、偏見を持っていることを知っておくこと、出会うことが大切。生きる事を優しい言葉で厳しく伝えてもらいました。ありがとうございました。

・「目を背けないことの大切さ」「命は熱がこもっている」印象的でした。

・やさしい語り調で分かりやすくお話し下さりとても聞きやすく、伝わってきました。

・映画が出来ていく過程でいろんな出会いがあり、製作者の思いがあり、出来ていく。話を聞いていて「日常の事を生きるために普通にやるだけ」っていうことが印象に残った。何事にも正面から真剣に向き合う姿が感じられた。

・アレクセイと泉、ナミイと唄えばの映画も見てみたいと思いました。

・稲作に従事する人も、屠畜に従事する人も何も変わらない。人々の差別もないし、仕事の内容にも差別があったらいけないと考えさせられた。今日は自分なりに新しいものに出会えたような気がします。

・人間として人間のつながりや生き様をこれほど自然に表出してくださる素晴らしい監督さんだと思います。本日の講演ありがとうございました。

・映画では聞けなかった出演者のことを分かりやすく伝えていただいたと思います。北出さんの「普通のことをやっている」という言葉が心に残りました。「このことを知らずに肉だけを食べている人の方が特別なこと」ということも印象的で視点が変わりました。

・映画を撮った経緯や内容について熱く語られていたのが印象的でした。命をいただくことのありがたさを感じさせられました。話も大変分かりやすい内容でした。

・映画監督の話を聞くのは映画作成についての話が中心で差別と人権を考える集会としては内容が合致していなかったと思う。ただ、監督としての話という視点では聞けて良かったです。

・屠畜の仕事を委ねるのではなく自分の仕事として捉えたという覚悟をお話からも映画からも感じることが出来た。自分でももっといろいろ考えたいと思った。

・映画についての話を聞かせていただきとても勉強になりました。纐纈さんの話や映画を見て歴史的に続いてきた差別や偏見をなくす取り組みをしていかなければならないと感じました。

・自分は教員として食育や、いのちの大切さ「いのちをいただく」ということを伝えてきたつもりでしたが、全くそれはなされていなかったのだと感じました。「いただきます」ということがどういう意味をもつのか、もっともっと熱く語っていかなければと思います。子どもたちにどういった形で提供し、感じ取ってもらうか、今後考えていこうと思います。

・映画を通して見た北出さん家族と、お話を通して感じるものと、とらえ方がまた違いました。お話が聞けて、良かったです。

・出会いをもっと積極的に行い、新しいことを知ることが大事と気づかされました。

・部落差別がある地域、家族を映画に撮るということは、現在、そして将来的に何か影響を及ぼすということ。良くも悪しくも影響を与える。映画に撮る、映像に残し、人々に届けるということは、撮られる側、撮る側、双方に大きな覚悟があったのだと知り、この映画の重みを感じた。映画を通して、〝いのち〟差別や偏見と様々なメッセージを伝えていると思った。

・ものを食べると言うことの本当の意味がわかりました。感謝せずに食べられないことを、つくづく実感しました。

・北出さんご家族の人物像が更に詳しく理解できた。改めて、この映画の素晴らしさを感じた。また、差別や偏見を人ごとと思わず、自分のこととととらえ、いろいろな事象を考えていくことが大事だと感じた。

・映画を観た直後に、製作者の講演を聴くことが

でき、映画についての見識を大きく深めることができました。大変貴重で有意義な機会でした。素晴らしい映画と素晴らしい講演でした。一人でも多くの人に映画を見ていただきたいし、講演を聴いてもらいたいと思います。今日は、ありがとうございました。

・ストーリーの構成がよくできている。関心の引き方や、前後の同じように見える映像の中で、相手（視聴者）が感じる内容の変化を引き出すテクニック、シャッターを開けた後の動きの違いなど、コミカルな部分もつけ、観る者の関心をそそいでいた。

・この映画を製作するに至った纐纈さんの思い。この映画をたくさんの人に観てもらって感じて欲しいと思っている理由を知ることができました。全く共感しました。肉を美味しい美味しいと言って食べている人全てに、この映画を観て欲しいと思いました。

・こういうドキュメンタリーを見る機会はなかったので、とても貴重な時間でした。この講演を聞けてよかったです。

・この映画の上映と映画製作のお話を、いろいろな場所でして欲しいと思いました。

・屠場の現場を映画にしていただき、ありがとうございました。牛肉等の命を大切にしたいです。

・映画を製作するにあたって、裏話や制作にこぎつけるまでの苦労が手にとるようにわかりました。

・何回も本集会に参加させていただきましたが、今回の講演が一番心打たれました。

・纐纈さんのお話を聞いて、纐纈さんが北出さん家族や差別問題と真正面から向き合ったからこそ、メッセージ性の強い映画がつくられたのだと思いました。

・映画を製作されたあやさんの熱い思いを感じました。私も仕事をしていく上で覚悟と責任を持って対応していかなくてはならないと思いました。

・監督のこの映画にかける思い、地域の方たちとの約束や思い。その一つひとつを、感激の思いで聞きました。

・素直にご自分の気持ちを伝えてもらい、自分自身の中に新たな学びができたと思います。ありがとうございました。

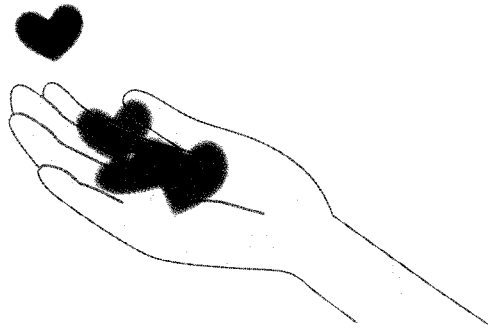
・この映画を撮るに至った経緯がとてもよくわかりました。纐纈さんの一途な思いと北出さん一家との出会いがあって、この映画ができたことを知りました。おかげで、屠場の屠畜の仕事に〝立ち会えた〟気がします。

・映画の感動がどこから来るのかが、纐纈監督の話からよく分かりました。北出さん一家の思いと仕事ぶりを、監督がそれに敬意をもって映画を製作されたこと、何が残酷なのかということ（食べ物を残すことこそ残酷）、淡々と丁寧な言葉で語られる纐纈監督の講演と映画がワンセットになって、生命・差別・生きる・仕事…いろいろなことを考える事ができました。

・いつも美味しいと言って食べている牛肉や豚肉を準備するために、家畜が屠殺されているという事実について、纐纈さんがいうように、自分も人まかせにしていたんだと強く感じました。命をいただく仕事は、自分はしたくない嫌だという気持ちが、事実に目を向けないまま差別につながっていくのかもしれないと深く思いました。自分も含めて、人間は自分勝手だと思いました。

・纐纈さんの情熱に感動しました。私は人を差別した覚えはないですが、知らないうちに人を差別しているのではないか？と恐いなと思いました。知らないことも、知ろうとしない事も罪だと思う。

・映画制作のバックグラウンドを聞いて、どのようなことを思い、感じたかを知ることができました。差別や偏見など、自らが面と向かって考えなければならないと感じました。



県外視察研修

２０１５年度の県外視察研修は、会長はじめ18名が参加して11月25日（水）～26日（木）に福岡県の嘉麻市、飯塚市、田川市で実施しました。

１日目はまず、嘉麻市うすい人権啓発センターで部落解放同盟嘉麻市協議会委員長田中浩二さんより、旧碓井町の概要や隣保館活動などについて話を聞きました。その後、朝鮮人徴用犠牲者の碑がある無窮花堂を訪れ、納骨堂の建立に至るまでの経緯を聞きました。次に筑豊の炭坑王と呼ばれた伊藤伝右衛門と歌人柳原白蓮が過ごした旧伊藤伝右衛門邸を訪れました。明治期に建てられた邸宅は和洋折衷でどの部屋も細部にまでこだわっており、贅を尽くした屋敷でした。また、嘉穂劇場の見学では炭鉱の盛んな頃の熱気を感じ取ることが出来ました。

２日目は、三井山野炭坑跡地のフィールドワークを行い、炭鉱住宅の見学や山野坑のガス爆発事故で犠牲になられた方の慰霊碑を訪れました。次に田川市石炭・歴史博物館を見学し、館長の安蘓さんから筑豊を中心とした炭坑と人権について話を聞きました。その後、博物館周辺の近代化産業遺産（旧三井工業所伊田竪坑櫓や炭坑節のモデルにもなった二本煙突）を見た後、館内の見学をしました。１階には採炭現場のジオラマなどの展示があり、石炭産業の歴史が一目で分かるようになっていました。２階の展示室ではユネスコの世界記憶遺産に認定された山本作兵衛の炭坑画を鑑賞しました。作兵衛は炭鉱労働者として自らの体験をもとに筑豊炭坑の仕事と生活を描いた記録画を残していました。

今回の研修で私たちは筑豊地区の炭坑の歴史を学ぶことが出来ました。三井炭坑は日本の産業近代化に大きな役割を果たしましたが、そこで働く人々には過酷な歴史があったことを忘れてはならないと思いました。

以下、参加者のみなさんから報告をいただきましたので掲載します。

嘉麻市うすい人権・啓発センター

部落解放・人権政策確立要求佐賀県実行委員会
2015年度県外視察研修に参加して

昨年の11月25日から26日の2日間、福岡県の嘉麻市、飯塚市、田川市の県外視察研修に参加させていただきました。私自身は生まれも育ちも現在の住まいも福岡市ではありますが、今回の視察研修で行った、嘉麻市うすい人権・啓発センター、朝鮮人徴用者の碑、旧伊藤伝右衛門邸、嘉穂劇場、三井山野炭鉱跡地、田川石炭・歴史博物館とも同じ福岡県でありながら、すべて初めて訪れたところばかりでした。

今回の研修は主に「炭鉱」をキーワードとして、成功者・搾取者としての旧伊藤伝右衛門から被害者・犠牲者としての朝鮮人徴用者の碑まで炭鉱繁栄のオモテとウラ、光と影を肌で感じることができました。

特に朝鮮人徴用者の碑に関しては、戦前の筑豊の炭鉱と朝鮮人徴用の関係や、炭坑現場での朝鮮人や部落出身者への差別、麻生炭坑での朝鮮人争議の際の地元の水平社による食料支援をはじめとした物心両面にわたる支援の事実など人間の尊厳が何であるかを改めて認識しました。

民団、朝鮮総連も朝鮮人徴用の碑に関しては協力して活動していてそれだけ大きな悲しい歴史を負わせてしまっていることを実感し、その活動には大いに感じ入るものがありました。

また、田川市石炭・歴史博物館では安蘓館長自らのご案内・ご説明の下、筑豊の炭坑の歴史を学べました。旧三井田川鉱業所伊田竪坑櫓や伊田竪坑第一・第二煙突もすごいなあ立派だなあと見上げてしまいましたが、そこには地下深い危険な場所でまさに命をかけて石炭採掘に従事していた方々の血と汗と涙を抜きには語れないと感じました。

今回の研修先は部落解放運動と直接的に関係するものが多かった訳ではありませんでしたが、私たちが一番大事にするべき人権という人間の尊厳に関わる意味合いでは問題を同じくするものであり、炭鉱と人権の関係について幅広く考えることができ大変有意義な研修だったと思います。

県外の史蹟・施設などはなかなか触れる機会がありませんし、貴重な機会を企画・提供してくださった実行委員会事務局のみなさまをはじめ、行程の手配から同行・説明までもしてくださった部落解放同盟福岡県連合会嘉麻市協議会のみなさまなど関係各位にこの場をお借りして感謝申し上げます。

今回の研修も糧にして、今後の人権政策確立活動に微力ながら尽力していくとともに、人権・同和に関する意識の更なる向上に活かしていきたいと思いを新たにした次第です。ありがとうございました。

実行委員会幹事　鶴田　雅之

学習の様子（うすい人権・啓発センター）

県外視察研修に参加して

11月25日・26日に部落解放・人権政策確立要求佐賀県実行委員会県外視察研修に18名の方々と参加させていただきました。

本研修は、筑豊地域の飯塚市、嘉麻市、田川市を巡り炭鉱の歴史とそこで働いていた日本人や朝鮮人労働者の実態、加えて炭鉱と被差別部落のかかわりを学ぶものでした。

1日目は、嘉麻市うすい人権・啓発センターで部落解放同盟嘉麻市協議会から被差別部落の成り立ちや部落差別撤廃の運動をお聞きしました。筑豊の被差別地区の人口は石炭産業が盛んになるにつれて増加しており、炭鉱労働者としてよそからきた人が被差別地区に住みついたためと説明されました。

その後、朝鮮人徴用犠牲者の納骨堂ムグンファ堂、そしてＮＨＫの朝の連ドラ「花子とアン」で有名になった旧伊藤伝右衛門邸と嘉穂劇場を見学しました。

無窮花堂

ムグンファ堂では設立に尽力した故ペ・レソン氏の半生のなかで、氏が朝鮮から来て最初に働いたところが、私が生まれたところのすぐ近くにあった川南造船所と聞き驚きました。

川南造船所は軍需工場を経て１９５５年に閉鎖され、その後所有権等の問題があって廃墟として50年以上残っていましたが、２０１２年に解体撤去されました。

太平洋戦争が始まり、若者が戦場に駆り出されるなか、労働不足を補うため炭鉱労働者として政府は朝鮮から多くの労働者を集めています。そして食糧など物資が無くなるとともに、朝鮮人労働者に苛酷な労働を強いています。そもそも戦争は、最大の人権侵害だと言われていますが、私は戦争によって差別も激しくなるように思います。あらためて平和を守るということは、人権を守ることであると認識したしだいです。

石炭王伊藤伝右衛門が華族の柳原白蓮を妻として迎え入れるため、敷地面積約２，３００坪という敷地に、部屋数25という広大な家屋に改築しました。しかも、その内部は京都からわざわざ宮大工を呼んで技を尽くさせたということで、当時の炭鉱事業主の富を象徴するような建物でした。

嘉穂劇場は１９２１年に大阪の中座を参考に建築され、火災や台風被害により１９３１年に今の建物に建て直されました。観客は当時筑豊地域の中心産業であった石炭炭鉱の労働者とその家族で、大衆演劇や歌手の公演などで賑わったそうです。当時筑豊にたくさんあった民間劇場もテレビの普及や閉山による人口減少により嘉穂劇場だけになってしまいました。

２００３年７月の豪雨により嘉穂劇場は、大きな被害を受け、存続が危ぶまれましたが、この時有名な俳優や芸能人が駆け付け、復旧チャリティイベントが盛大に行われたこともあり、大きく新聞報道されるなど話題となりました。

２日目は嘉麻市の現在も残っている炭鉱住宅の見学後、小高い丘にある山野坑の慰霊碑を見学しました。丘から周囲を見渡してもぼた（炭鉱で選炭したあとの廃石や質の悪い石炭）山もなく、炭鉱があったと思えない景色でした。山野坑では１９６５年６月ガス爆発により２３７名の方が亡くなっています。その２年前には大牟田の三池坑でも炭じん爆発で４５８名が亡くなっています。もちろんどちらもテレビニュースで大きく報道されましたので、私は炭鉱というところは恐い仕事場だと思ったことを憶えています。

最後の見学先の田川市石炭・歴史博物館は、筑豊炭田の石炭産業に関する資料を展示してあり、原始的な採掘から近代的な採掘までの、使われた道具や機械の変遷を見ることができました。また、この博物館のもう一つの見どころが、２０１１年にユネスコにより日本で初めて世界の記憶遺産に登録された山本作兵衛作の絵画展示でした。山本氏は人に頼まれ、たくさんの炭鉱を題材とした絵を描いていますが、１日で描いたような絵は登録されていないそうで、多くの展示絵画のうち、登録されているのは３点だけでした。

私の生まれた地域にも炭鉱があり色々な思い出があります。麻生久原炭鉱という炭鉱があり、事務所や炭鉱住宅の一画にある保育園に通っていました。5才のときに閉山し園舎も解体され、公民館が臨時の保育園になりました。小学校でも1968年に楠久炭鉱という炭鉱が閉山し、親しくなった友人が去っていき寂しい思いをしたことを覚えています。

山野坑ガス爆発事故犠牲者慰霊碑

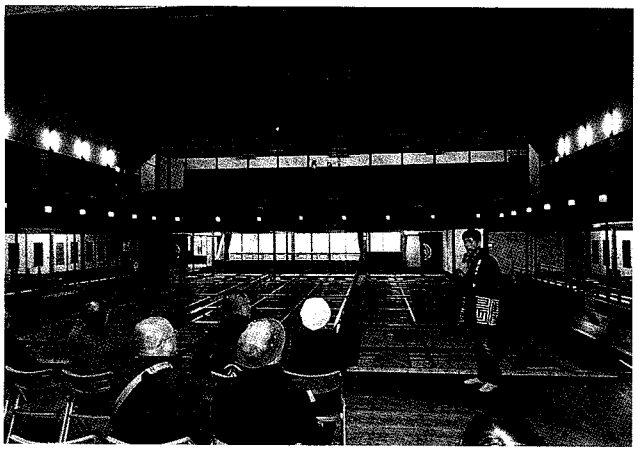
ほかにも、間借りされていた鉱山技師の方に可愛がってもらったこと、海水浴をしていた砂浜がぼたで埋められて泳げなくなったこと、ぼた山での石炭拾いをしたことなど炭鉱に関してはたくさんの思い出がありますが、今ではわずかに石炭積み出し用の構造物が海岸線に残っているだけです。

このようにエネルギーが石炭から石油へ変わる時代を知っている私にとって、栄枯盛衰は世の習いと言いますが、自分の思い出と重なり感慨深い研修となりました。

伊万里市人権・同和対策課　山崎　淳一

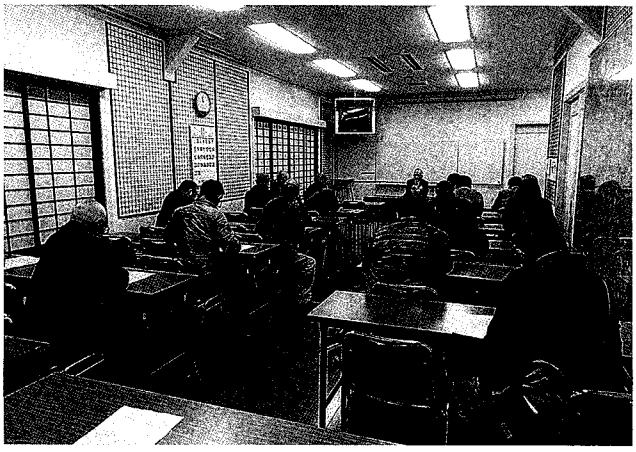
旧伊藤伝右衛門邸

旧伊藤伝右衛門邸の中庭


嘉穂劇場での研修の様子

嘉穂劇場

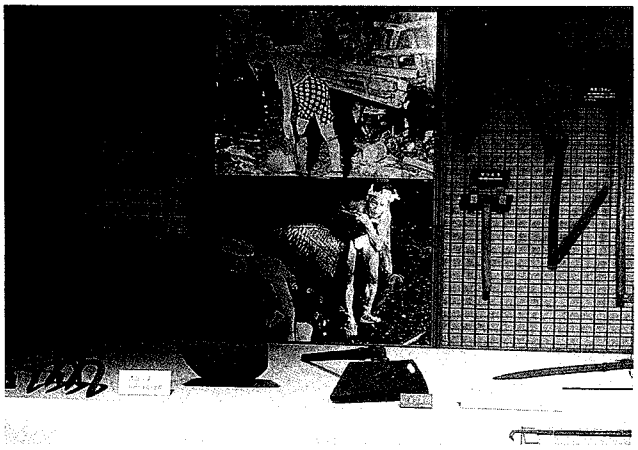
旧三井山野炭鉱住宅



学習の様子（田川市石炭・歴史博物館）

旧三井田川鉱業所　伊田竪坑　第一・第二煙突

旧三井田川鉱業所　伊田竪坑櫓



採掘に使われた道具

お知らせ

２０１６年度の開催予定の研究会・講座・集会等のお知らせをいたします。

▼部落解放・人権政策確立要求佐賀県実行委員会▲

○第27回差別と人権を考える佐賀県民集会
＊期日　９月30日(金)
＊会場　佐賀市文化会館

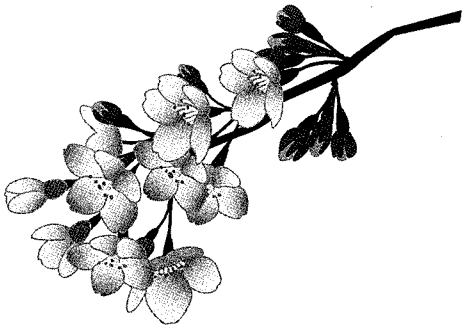
▼運動体関係▲

○部落解放第61回全国女性集会
＊期日　５月14日(土)～15日(日)
＊場所　長崎市

○人権社会確立第36回全九州研究集会
＊期日　５月25日(水)～26日(木)
＊会場　佐賀県総合体育館 他

○第41回部落解放・人権西日本夏期講座
＊期日　６月９日(木)～10日(金)
＊場所　高知市

○部落解放研究第50回全国集会
＊期日　10月18日(火)～20日(木)
＊場所　奈良市



○第31回人権啓発研究集会
＊期日　２０１７年２月２日(木)～３日(金)
＊場所　名古屋市

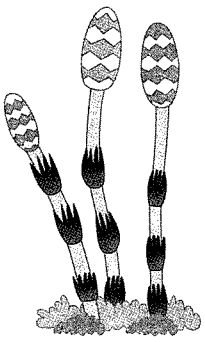
○第39回全国人権保育研究集会
＊期日　２０１７年２月25日(土)～26日(日)
＊場所　宇治市(京都府)

▼人権・同和教育研究協議会関係▲

○第43回九州地区人権・同和教育夏期講座
＊期日　８月22日(月)～23日(火)
＊場所　福岡市

○第46回佐賀県人権・同和教育研究大会
◇全体会
＊期日　８月８日(月)
＊場所　佐賀市文化会館
◇分科会
＊期日　10月21日(金)
＊場所　鳥栖・基山・みやき地区

○第68回全国人権・同和教育研究大会
＊期日　11月26日(土)～27日(日)
＊場所　熊本市



お尋ねやお問い合わせは
部落解放・人権政策確立要求佐賀県実行委員会
ＴＥＬ　０９５５（７３）２６１５
ＦＡＸ　０９５５（７３）８６１５